

歌う公認会計士・長山宏と哲学する音楽家・見上潤によるリサイタル

シューベルト「冬の旅」

Franz Schubert "Winterreise"

長山 宏 (バリトン) & 見上 潤 (ピアノ)

私のライフワークとしております、シューベルト作曲歌曲集冬の旅、
全 24 曲のリサイタルを行います。

冬の旅は天才シューベルトが「私が最も好きな曲」と言っている曲であり、
とても奥の深い作品です。

私の仕事のテーマである「人は自分の人生をいかに生きるか、そしていかに
自己実現するか」にド真ん中から向き合っている作品だと思っています。

同門の音楽家、見上潤氏と 8 年にわたり月 1 回研究し、
毎年コンサートをすることにしております。

今回は、最近私が自ら体験した人生の苦難から見てきた世界から冬の旅の
景色を歌と語りとパンフレットの解説で問題提起していきたいと思います。

その後、打上げで人生について語りましょう。

多くの方のお越しをお待ちしております。

2011 年 2 月 11 日(祝) 15:00~18:00

会場: パウエル・フルート・ジャパン

観覧無料



なお、終了後打上げを
予定しておりますので、
お時間がある方は
お残りください。
そして人生について
語りましょう。



パウエル・フルート・ジャパン

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 1-13-12
西新宿昭和ビル 8F (新宿郵便局向かい)

Tel: 03-5339-8383

プロフィール

長山 宏 (バリトン)

大学1年のときに「一生の思い出に」と、ベートーヴェンの第九を歌う機会に恵まれ、歌にめざめる。30歳でサラリーマン失格の烙印を自ら押すとともに、公認会計士をめざし浪人になり、声楽を淡野弓子氏に師事。35歳のときに、アグネス・ギーベル女師のレッスンを受け「あなたのような美声はドイツにいない」とおだてられ木に登る。

「男性の先生につきなさい」という師の教えもあり、苦しんだ挙句、ルイジ・ダル・フィオール神父と出会い、歌のみならず、人生の師として多くを学ぶ。

魂で歌うことを学び、ソプラノ歌手の妻と、歌に満ちた生活をしていたが、2001年2月2日に最愛の妻が肺腺癌にて他界。そして同年6月19日にルイジ・ダル・フィオール神父も他界。

2年間、歌を忘れたカナリヤであったが、見上潤氏と毎月「冬の旅」を練習することで歌に復帰し、多くの取引先でむりやり歌わせてもらっている。

見上 潤 (ピアノ)

東京都出身。少年時代、高度経済成長下の科学万能主義の下、化学・物理学に入れ込む一方、ベートーヴェン《第9交響曲》のオーケストラ・スコアに遭遇し、その得体の知れない記号体系に魅入られてしまう。早朝の音楽室に忍び込みピアノを独習。サイエンスと音楽の間にいる研究者を志す。

国立音楽大学声楽学科を経て、同大学院作曲専攻（作品創作）を修了。政治的な問題意識に基づいたアヴァンギャルドな作品を発表していたが、次第に音楽史を遡り、調性とその崩壊の原理解明へと関心を移し、三上かーりん氏とのドイツ・リート共同研究（1983年）、およびルイジ・ダル・フィオール氏の「ドルチェカント発声法」（1993年）に基づき、言語・音楽・演奏を統一的にとらえる「ことば・おと・こえの三位一体理論」の確立と、その現実化を目指している。

1981年、秋川コーラス指揮者就任。1994年、「オペラ・エオリア」を結成。ピアニスト及び指揮者として多くの作品を上演する。

1997年、モンゴルの首都ウランバートルのオペラハウスにおける「日蒙国交25周年記念交流演奏会」ガラ・コンサートを指揮。同年、「上田学園」の講師就任。5ヶ国語で読む「星の王子様」、英語で読む「日本国憲法」など、多言語を駆使した学科横断的な授業を行う。

2001年、「音楽理論研究会」（会長：島岡譲）の結成に加わる。2003年、音楽の素材を120種の音列に分類した「オートゲノム理論」を発表。

現在は、西洋クラシック音楽を対象とした音楽理論、音楽分析（アナリーゼ）に特化した講義を「音楽分析学研究会」で常時行なっている。バッハ《マタイ受難曲》、シューベルト《冬の旅》、シューマン《詩人の恋》、ショパン全作品（ポーランド語による歌曲を含む）、ベルクの歌曲、フランスのエクリチュールなどの分析プロジェクトが同時進行中。

主要論文：「古典・ロマン時代の音楽作品における分析理論の方法と課題」

主要作品：《ソプラノと7人の奏者のための“昇天” Ascension pour soprano et sept exécutants》、歌曲集《シュレーディンガーの猫のための哀歌 Klagelieder für Schrödingers Katze》、《2009年春 ショパンへのオマージュ Wiosna 2009 Hommage à Chopin》など。

音楽分析学研究会ホームページ

<http://www.geocities.jp/dolcecanto2003jp/>